

畜産部会

全国集会在開催されました

今年に入り、短角牛編、放牧豚編の会議を行なうなど活動が徐々に本格化している畜産部会。Radixの会では、らでいっしゅぼーやと共同で、今後の畜産部会の方向性を確認し、畜産の現状と見通しを学ぶ場として「全国集会」を開催。40名の生産者・メーカーさんが、最後の桜が舞い散る4月11日、東京虎ノ門に集結しました。

News

News

■生産者自主基準を作ろう

遺伝子組換えコーン「スターリンク」の問題が記憶に新しいと思いますが、らでいっしゅぼーやの会員さんの関心が高いのも「輸入飼料」だそうです。「Radix環境保全型生産基準要項」が作られた1996年時点は、non-GMOという概念もまだ社会化されておらず、新たに作る時期を迎えています。そこでらでいっしゅぼーやから、現在の生産基準要項を見直しつつ、遺伝子組換え飼料について、その課題の解決に向けた方針^(※1)を盛り込んだ『生産者自主基準集』の作成が、提案されました。

『生産者自主基準集』は、農産の生産者の間ではすでに第3集まで作成されています。これを畜産編に展開するにあたり、農産の自主基準作りにも携わってきたらでいっしゅ商品部の畜産責任者・近藤課長は話します……

「自主基準は、こうすべき、こうでなくてははいけない、というのではなく、現在の皆さんの位置を確かめるためのものです。現在地を知り、これからどの方向へ進むかが見えてくれば、必ずみなさんの武器になるのです」。

また、Radixの会会長としてオブザーバー参加していた栃木太陽の会代表の信末清さんも、自らの経験から、「自主基準はそれこそ自分たちが自主的に作るんだという意識が大切。自分たちのやりかたを改めて見つめ直して文書にすることで、次のステップをど



うすればいいかが見えてきた」と自主基準作成の意義を語りました。

■有機畜産を視野に

この日、「オーガニック畜産の現状と今後の方向」と題して講演していただいた有福雄一さん(NOAPA:日本オーガニック農産物会副理事長、「自然と農業」編集発行人)のお話では、海外と比較した日本の有機農業の現状、農水や法制と現場の生産者との情報の乖離^(※2)が浮き彫りにされました。そして、近く法制化が予想される有機畜産^(※3)へと話が及ぶと、聞き入っていたみなさんは、厳しい表情になったり、「うちは大丈夫。やっつけられる」と自信を覗かせたり……。

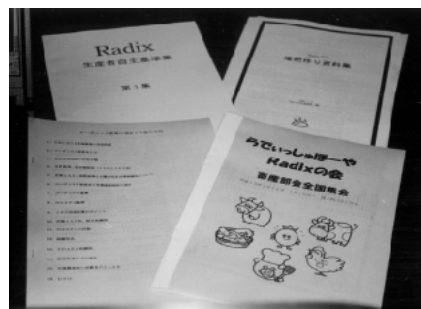
「有機」や「非遺伝子組換え」に対する消費者の意識は非常に高く、それに対応する企業の流れもどんどん加速しています^(※3)。らでいっしゅとおつきあいのある生産者・メーカーさんは何年も前から環境問題に独自に取り組んできた方々です。自主基準の名のもとにこれまでのノウハウを集約し、確かな情報・技術を共有・吸収していけたらいいですね。この日の集会でも、まずは各生産者・メーカーから自主基準の素案が出されることが決定しました。そしてこの自主基準の作成を基本として、今後の畜産部会は、引続き各畜種ごとの分科会を行ない、それぞれ品質と技術の向上を目指した交流会を進めていくことが改めて確認されました。🌱

(事務局・島田)

※1：らでいっしゅぼーやでは「非遺伝子組換え飼料の取扱基準(畜産飼料編)」を設け、この日、品質保証課より資料配布及び説明がなされました。

※2：海外では有機認証取得農家の飼料の自給率が2005年までに95%以上と言われているのに対して、日本では2025年でも5%~10%になるかどうか……。

※3：米国マクドナルド社は動物愛護に沿った採卵鶏飼育のガイドラインを設けました。今後は日本に馴染みのない動物愛護も視野に入れられないといけません(有福氏)



有福雄一氏

みなさんの作る自主基準は今後の有機畜産から見てもたいへん興味深い。ぜひ世界の動き、コーデックス・農水・法制などの流れを念頭におく必要がある。



中洞正さん

牛乳の成分、殺菌温度の基準など目安ではあるが作っている。輸入穀物飼料は一切使っていない。放牧の酪農が広がるよう願っている。後継者が現れたとき、どのレベルの基準で仲間に入ってもらえたらいいかを考えている。



信末清さん

自主基準は農産が一足先だったが、畜産・加工も併せて、環境保全型に向けみんなで協力していきたい。Radixの役員会でも業種を超えた協力を模索している。自主基準は第一歩。今後の自分たちの方向性が見えてくるので、共に日本そして世界を見据えた畜産をやりたい!

